

NCGM

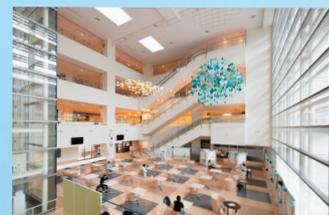


National Center for Global Health and Medicine

PRESS

CONTENTS

- 院長・副院長よりご挨拶
- MEDICAL PRACTICE 乳腺内分泌外科／乳腺・腫瘍内科
- 通院支援アプリ「wellcne」のお知らせ
- 当院小児科キャラクター「まーちゃん」誕生



国立国際医療研究センター病院
病院長
杉山温人 Haruhito Sugiyama

「2023年12月末に1階ロビーのレイアウトを変更し、同時に電子カルテを更新しました。

今後、スマートフォンによる外来待ち時間の確認や後払い会計ができるようになり、患者さんの利便性が格段に高まります。

かねてより、紹介患者の待ち時間が長い事が指摘されてきました。

診療連携登録医の皆様におかれましては、紹介患者さんの待ち時間を減らすために、紹介初診の予約をお願いいたします。



国立国際医療研究センター病院
副院長
丸岡豊 Yutaka Maruoka

今号では「乳腺センター」等の特集いたしました。乳腺センターは乳腺外科医、腫瘍内科医が中心となって、高度の専門性を持つ診療科との連携・協力のもとにチーム診療を実践しており、NCGMの総合力が活かされています。また今春から導入予定の新しいシステムもご紹介いたします。スマホでの会計や予約確認、外来での呼び出し、検査結果の確認などができるようになります。小児科の新たな愛らしいキャラクターもぜひご覧ください。



国立国際医療研究センター病院
副院長
大曲貴夫 Norio Omagari

2023年11月1日付でセンター病院の副院長を拝命しました、大曲貴夫と申します。私の担当は感染症および健康危機管理です。当院には2011年に入職し、国際感染症センターにて感染症の診療と研究を行ってまいりました。感染症及びその疑いの患者さんにはいつでも国際感染症センターで対応致します。また感染対策について、新宿区保健所と連携しながら引きつぎ新宿の皆様と一緒に対応させて頂きたく、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



北川 大医師
 ●乳腺内分泌外科診療科長・院長補佐
 ・日本外科学会認定医・専門医・指導医
 ・日本乳癌学会認定医・専門医・指導医
 ・日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍専門医

くするため、産婦人科とも連携して
 ます。
**地域とのつながりも大切に
 しながら患者さんに負担の
 少ない医療を目指しています**
 当科では東京都が推進する医療連
 携制度を積極的に取り入れておりま
 す。一人の乳がん患者さんを病院だ
 けで全て管理するのではなく、近隣
 の先生方（かかりつけ医）と連携を
 しながら管理していくものです。例
 えば、当院で乳がんの手術や放射線
 治療が終了し、その後、数年にわた
 る内分泌療法（ホルモン療法）を行
 う段階になった際、治療に必要な処

方をかかりつけ医で受けつつ、定期
 検査は病院で受けられるようにして
 います。
 「通院時間」＋「院内の待ち時間」
 は患者さんに大きな負担となり得ま
 す。通院に費やす時間を最小限にし
 ながら必要な治療や検査を効率よく
 継続することが可能となります。そ
 してこの際に東京都が作成した「東
 京都医療連携手帳」を積極的に用い
 ています。この医療連携手帳に治療
 経過の内容を随時記載していくこと
 によって、かかりつけ医と病院の連
 携がスムーズに行えるだけでなく、
 患者さんご自身とも情報共有が
 可能となり、安心して診療を受けら

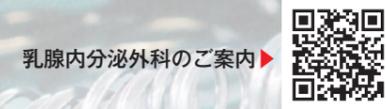
れるようになります。日本でも「か
 かりつけ医」を持つことが推奨され
 ているご時世、こういう取り組みが
 地域の先生方とつながる良いきっか
 けになり得ると考えています。
**乳がん健診は積極的に
 受けていただきたい**
 乳がんを予防することは、なかな
 か難しいのが現状です。そのため、
 乳がんができたなら、できるだけ早い
 段階で見つけることが大切です。
 乳がんの発見と治療は、早ければ
 早いほど、軽い治療で済み、抗がん
 剤などの負担の大きい治療を避けら
 れる可能性が高まります。そこで、
 積極的に受けていただきたいのが乳
 がん健診です。日本の40〜69歳の乳
 がん健診の受診率は、まだ5割以下
 です。諸外国では6〜7割以上が受
 診しており、日本でも受診率が高く
 なれば、乳がんを早期に発見できる
 人がさらに増えるのではないかと思
 います。
 がん治療は、早期発見・早期治療
 にこしたことはありません。より多
 くの人ががん健診を受けられること
 を望みます。

受診方法

- 【外来診療時間】**
8時30分-17時15分
- 【初めて当センターを受診される場合】**
乳腺内分泌外科および乳腺・腫瘍内科ともに完全予約制です。以下をご参照いただき、ご予約ください。
- 【患者さん】**
予約センター（03-3202-7494/7495：平日8時30分-17時00分）へ電話していただき、乳腺センター（乳腺内分泌外科/乳腺腫瘍内科）のご予約を取得していただきますようお願いいたします。
- 【医療機関の方】**
医療連携をご利用ください。当センター医療連携室（03-3202-8066）を介して予約取得が可能です。

【注意事項】
 直近の血液検査データ、画像検査を行った場合には、画像データのCD-ROMをご持参ください。
 病理検査を行った場合には、病理報告書と可能な限り病理標本を持参してください。
 病理標本の取り寄せや再検査のために、治療方針の決定に時間がかかる場合があります。
 投薬を受けている場合には、お薬手帳を持参してください。

NCGM 1
MEDICAL PRACTICE



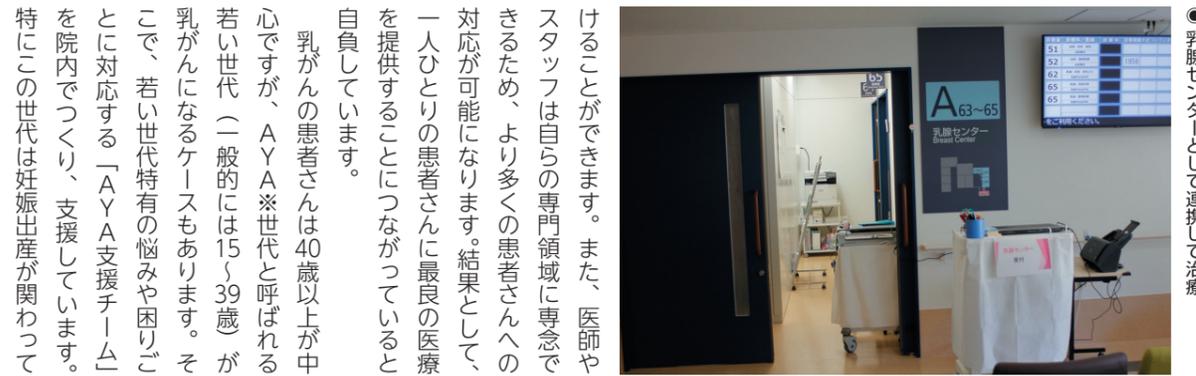
●乳がんの診断、手術、術後のフォローアップを担う

乳腺内分泌外科

院内の各診療科と連携した「乳腺センター」を通じて
 乳がんの治療に必要な高度な医療を総合的に提供

**総合病院ならではの
 情報や先進医療も提供**
 当科は主に乳がんの診断、手術、
 そして術後のフォローアップを担当
 しています。乳がんの外科治療法と
 しては、乳房切除手術と乳房温存手
 術の2つがあり、乳房を切除する場
 合には、乳房再建手術を行うことも
 あります。患者さんは乳がんの多い
 年齢層である40代以降の方が多く
 ですが、中には20代や30代の方も
 いらっしゃいます。当院は新宿区、中
 野区、練馬区が主な医療圏となっ
 ており、地域診療を支えているクリ
 ニックの先生方の要望にできるだけ
 お応えし、サポートすることを1つ
 の使命と考えています。
 当院は総合病院のため、さまざま
 な診療科の専門医の協力を得られる
 ところが強みといえます。そのため、
 がん以外に持病がある場合にも対応
 することが可能です。例えば、心臓
 が弱い患者さんの場合、全身麻酔の
 リスクが高くなります。このような
 ケースでは、循環器の専門医に、い
 ざという時に対応してもらええる体制
 を組むことで、患者さんに安心して
 手術を受けてもらうことができま
 す。

また、乳房再建手術を担う形成外
 科の医師は、顕微鏡を使って細い血
 管を1つ1つ縫いつないでいく「マ
 イクロサージャリー（微小外科）」や、
 患者さんの体の組織の一部を別の部
 分に移植する「自家組織再建」など
 を得意としています。高度な技術に
 よって、長時間に及ぶ手術をできる
 だけ短縮することで、患者さんの負
 担を軽減します。
 こうした強みを活かし、当院では
 「乳腺センター」を設けて、乳腺内
 分泌外科と乳腺・腫瘍内科が中心と
 なり、放射線科、形成外科、緩和ケ
 ア科など、高度な専門性を持つ診療
 科と連携し、乳がん診療に特化した
 チーム診療を行っています。
 乳がんの診療は、診断、手術、抗
 がん剤治療など、外科医が一貫して
 受け持つのが一般的です。それに対
 して当院では、手術による治療は乳
 腺内分泌外科、抗がん剤治療は乳腺・
 腫瘍内科といった形でそれぞれの専
 門医・スタッフによる役割分担をし
 ています。各領域の治療が複雑かつ
 高度化している中で、一人の医師が
 総合的に対応することは難しくなっ
 ています。各領域の専門家が役割を
 分担することによって、患者さんが
 各領域の高度な医療をスムーズに受



●乳腺センターとして連携して治療。

※ Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の略



清水千佳子 医師
 ●乳腺・腫瘍内科診療科長
 がん総合診療センターセンター長
 がん相談支援センターセンター長
 ・日本臨床腫瘍学会 協議員
 ・日本乳癌学会 評議員
 ・日本がん・生殖医療学会 理事
 ・AYA がんの医療と支援のあり方研究会 理事長

NCGM 2 MEDICAL PRACTICE

乳腺・腫瘍内科 ● 診察のご案内 ▶

● 進行・再発がんや術前術後の薬物療法を担う

乳腺・腫瘍内科

最新の臨床試験や研究の成果をキャッチアップし
 患者さんに寄り添いながら最良の医療を提供

長期にわたる薬物治療を
 生活面からもサポート

乳がんには、手術、放射線治療、薬物療法などの治療法を組み合わせて、より高い治療効果を目指す「集学的治療」が行われます。これらの治療法のうち、薬物療法を担っているのが当科です。主に、進行・再発がんの患者さんや、術前（手術前後の期間）の患者さんの抗がん剤治療を担当しています。また乳がんの他、少数ですが原発不明のがんや肉腫などの診療も行っています。

がんが乳房にできたり、乳房の周辺のリンパ節に広がる程度であれば、手術で根治を目指します。しかし、乳がんの細胞が血液やリンパを通じて肺、肝臓、骨など遠隔の臓器に転移した状態になると、根治が難しくなってきます。周期の薬物療法では、遠隔転移のリスクのある患者さんに、そのリスクを減らすために薬物療法を行います。

遠隔転移を伴うような進行・再発がんの場合は、薬物療法を行いながら、患者さんの暮らしをできるだけ長く維持できるようにしていくことが治療の目標になります。転移のある乳がんの場合、なかなか根治をす

るのは難しいですが、なかには10年も20年もお元気にされている方もいらっしゃると思います。関連する診療科の医師や看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどと連携し、治療や生活の支援を行います。その際に意識しているのは、常に患者さんに利するように、それぞれの役割を機能させることです。単にがんの治療を行うのではなく、患者さんが、がんと生活の折り合いがつけられるようにすることを大切にしています。

進行・再発がんは、がんが全身に広がっている状態のため、基本的には薬によって全身のがんの進行を抑える内科的治療が中心になります。ただ、局所的にがんの症状が出てきて生活に支障をきたす場合には、放射線治療などの局所的な治療を行い、症状をコントロールしていきます。また、つらい症状を和らげる緩和ケアも重要になります。

薬物療法の種類としては、主にホルモン療法、化学療法、分子標的療法があります。ホルモン療法は、がん細胞の増殖を抑えるために女性ホルモン（エストロゲン）の働きを抑える治療です。化学療法は、抗がん剤を用いてがんの細胞分裂を抑制する治療です。細胞分裂が活発な臓器も影響を受けやす

がん細胞を増殖させるスイッチになる分子の働きを抑制する治療です。これらの療法を組み合わせて、より高い効果が得られそうな治療戦略を立てていきます。

日進月歩で進化する医療
 諦めずに相談を

乳がんは必ずしも完全に治る病気とは言えませんが、より良い治療法の開発が日々進められています。次々と発表される研究成果を常にキャッチアップしながら患者さんに還元するのは大変ではありませんが、それこそがこの仕事の醍醐味でもあります。例えば、「HER2」というタンパク質を持った乳がんは増殖スピードが速いため、予後が悪いとされてきましたが、「ハーセプチン」という分子標的治療薬の登場によって、今では多くの患者さんが長く生きることができるようになりました。また、20〜30年前は、がんが骨に転移して骨折で動けなくなり入院する患者さんがいましたが、骨転移による骨折を予防する薬ができたので、骨折のリスクを3〜4分の1まで減らすことができ、今では骨折が理由で入院する患者さんはほとんどいなくなっています。

「ブレスト・アウェアネス」で乳房を意識した生活を

乳房を意識する生活習慣を「ブレスト・アウェアネス」といいます。20歳くらいになったら、乳がんという病気があることを意識して、日頃から自分の乳房を触ってみる習慣を持つことが奨励されています。特に、乳がんや卵巣がんを患った家族がいる場合は、より意識的に行うとよいでしょう。

40歳以上の女性にはマンモグラフィによる乳がん検診が行われていますが、40歳未満の女性には推奨されていません。若い頃から受診しすぎると、逆に発がんリスクがあるためです。また、若い世代は乳腺が発達しているため、レントゲンにがんが写りにくい傾向があります。

もし、しこりがあると感じたら、専門家の診断を仰ぐことが大切です。仕事や家事、介護などで忙しいからと後回しにせず、その時だけは少し自分を優先して、医療機関を受診してほしいと思います。



●乳腺センタースタッフ。連携して横断的に治療。

そのため、吐き気や白血球減少、脱毛などの副作用があります。しかし、最近では副作用対策の薬が進歩しており、以前よりも副作用は軽減できる傾向があります。分子標的療法は、

FEELTHE NCGM

当院小児科をイメージしたキャラクター「まーちゃん」誕生



当院小児科オリジナルのキャラクター「まーちゃん」が誕生しました。キャラクターデザインから絵本、グッズの製作など、女子美術大学の学生の皆さまにご協力いただきました。当院の小児科ホームページからアクセスできますので是非ご覧ください！



QRコード▲

まーちゃん関連グッズ



▲まーちゃんが小児科病棟へ入院してから退院するまでの物語が描かれた絵本「まーちゃん 病院へいく」は、子ども達の入院に対する心の準備や医療経験の一つ一つが強みや自信につながって、前向きに次の医療処置へ向かえるような効果を期待しております



▲まーちゃんの仲間たちが入院生活を安全に過ごせるように病院での安全について紹介する「安全BOOK」は、たくさん子ども達が手に取れるように、国際診療部の支援を受け、7か国語で書かれています

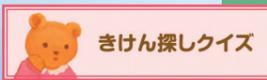


<https://pediatricsmaachan.ncgm.go.jp/>



公式ホームページをみよう！

クイズで入院生活について学べます▶



STAFF'S VOICE

小児科の紹介

私たちは、当院が1945年に国立東京第一病院として開設された時から続く小児科であり、深く地域に根差して地域の一次から三次までの小児医療を担う基幹病院です。現在、小児科と新生児科であわせて常勤医9名(小児科専門医)・フェロー及びレジデント7名・心理療法士4名・保育士1名・ホスピタルプレイスベシヤリスト1名・非常勤医師5名の体制で小児・新生児医療に幅広く対応しております。一次・二次医療の入院が必要な急性疾患・慢性疾患に即時に対応することはもとより、時には救命救急センターや集中治療室と協力して高度三次医療・救命医療にも対応しています。

疾患群としては、多くの感染症・呼吸器疾患は言うまでもなく、超未熟児・極未熟児の診療にあたり、血液疾患や小児がん診療を行い造血幹細胞移植も実施します。川崎病の急性期診療および長期経過観察も盛んに行っています。多くの先天性心疾患の内科診療、けいれん性疾患、重症心身障害者の総合診療を行い、神経疾患の診療を行っています。子どもの心の問題にも対

応しています。

地域医療と社会資源の活用を目指し、地域の小児科医や小児医療担当の皆様の協力のもと活動しています。周辺の保健センターや保育園での健診や診療を行っています。なかでも「しんじゅく夜間こども診療室」は新宿区医師会・新宿小児科医会・新宿区との総合的な協力関係の下に2016年7月1日に国立国際医療研究センター内に開設し、現在では365日一次救急医療に当たっています。

小児夜間診療(しんじゅく夜間こども診療室)

実施場所・名称	国立国際医療研究センター病院内(新宿区戸山1-21-1)「しんじゅく夜間こども診療室」
対象	(原則として)満15才以下のお子さん
診療科目	小児科(骨折・熱傷等の外科を除く)
診療日時	月曜日～金曜日 午後7時～午後10時(受付は午後9時30分まで) 土曜日・日曜日・祝日 午後6時～午後10時(受付は午後9時30分まで)
電話番号	03-6228-0713(上記受付時間帯のみ対応、FAX兼用)

NCGM

National Center for Global Health and Medicine

INFORMATION



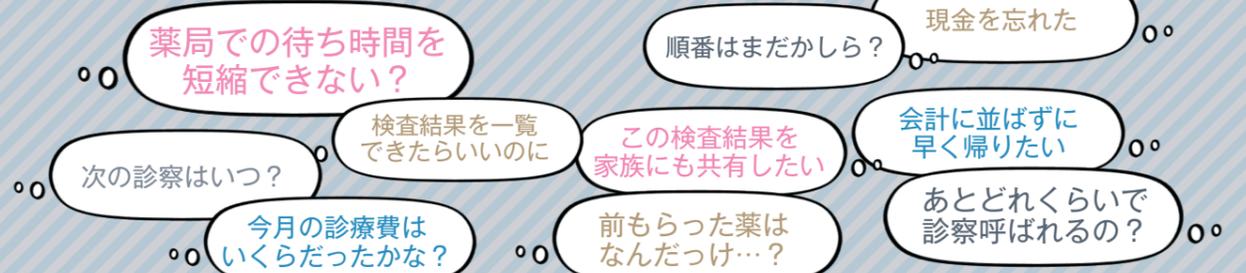
wellcne(ウェルコネ)は3月26日から運用開始となります

通院支援アプリ「wellcne」

当院でのご利用
全機能無料!

wellcne(ウェルコネ)はゆたかさを繋ぐ患者支援アプリです

患者さんのスマホに診察の待ち順番のお知らせを通知したり、オンライン決済(後払い会計)を実現することで、スムーズな通院をサポートします。また、患者さんの検査結果などを共有することで健康管理を支援します。



これらの悩みをアプリで全て解決できます!

時間短縮・混雑緩和

- 会計を待たずオンライン決済を利用した後払い決済ができます(事前にクレジットカードの登録が必要です)。
- 診察の順番をスマホにご案内します。
- 処方箋をカメラで撮影し、スマホから薬局へ事前に送信できます。

情報共有・医療データ管理機能

- 患者さんが薬や検査の内容を把握できるようになり、アプリ利用者同士でデータ共有ができます。

受診予約確認

- 病院と患者さんとの連絡手段を多様化することで、患者さんとのコミュニケーションが円滑化します。
- 受診の予約情報がアプリに自動反映されます。

「wellcne」アプリのインストール

1 アプリをインストール
お手持ちのスマホにウェルコネのアプリをインストールします



▲「wellcne」アプリのインストール。



2 基本情報の入力とご本人確認
アプリ登録のために、正確な利用者情報が必要になります。本人確認書類をお手元にご用意いただき、アプリ内で利用規約の同意後、本人確認書類の撮影・顔写真の撮影を行い、本人確認の申請をお願いします。

- 本人確認書類
運転免許証、マイナンバーカード、在留カード、住民基本台帳カード、運転経歴証明書、特別永住者証明書
本人確認の受付時間
月曜～土曜 9:00～18:00
※受付時間内に本人確認の申請をしていただいた場合、約15分で審査が完了します。上記時間外に申請いただいた場合は、審査完了までお時間をいただきますので、あらかじめご了承ください。



3 診察券のご登録
利用したい病院の診察券を登録します。アプリと連携している病院の診察券は、複数枚登録して・管理することができます。登録する診察券をお手元にご用意ください。

- 登録する診察券をお手元にご用意ください。
※患者データの照合に約15分かかります。診察券の登録が完了しましたら、サービスを利用できるようになります。



4 お支払い方法の登録(任意)
アプリ決済(後払い会計)をご利用される場合は、クレジットカードを登録します。カードは複数枚登録することができ、病院ごとに利用するカードを選択できます。

登録の手順などの詳細はこちらの利用登録ガイドをご覧ください。



▲「wellcne」登録手順。

お問合せ窓口

▶プラスメディサポートデスク
0120-120-075
9:00～18:00
年末年始を除く
support@plus-medi-corp.com
株式会社 プラスメディ
東京都千代田区神田神保町2-5-11 神保町センタービル6階

※ご利用いただける機能は、医療機関によって異なります。
※本人確認に最大で数日お時間がかかる場合がございますので、アプリインストール後、すぐにご利用いただけない場合がございます。

■人間ドックセンターのご案内

長い歴史をもつ当人間ドックセンターは、その歴史と経験に基づき、お客様からの安心と信頼をいただいております。その期待にお応えできるよう全スタッフが心を込めてお迎えしております。施設内は広めのフロアでゆったりとしており、スムーズに検査を受けていただけることはもちろん、病院の専門診療科とも常に連携を取っており、ご病気が発見された際には、迅速に専門診療科へご紹介しております。

また当院の特徴として、胃と大腸の内視鏡検査が同日に行えるコースや専門診療科とタイアップしたコース、PET-CT 検査などの様々なオプション検査をご用意しており、皆さまの生活習慣や既往歴などに合わせて、ご自分でご自由にお選びいただけます。日帰りコースだけではなく、ご宿泊コースもをご用意しており、お部屋からの夜景やお食事を楽しみながら、時間にゆとりをもって検査をお受けいただけます。



人間ドックセンター

ご寄付のお願い ～医学研究の発展と優れた人材の育成のために

当センターは、センター病院・国府台病院という2つの診療拠点に加え、研究所・臨床研究センター・国際医療協力局および国立看護大学校を擁し、高度総合医療を提供するとともに、特に感染症・免疫疾患ならびに糖尿病・代謝性疾患に関する研究・診療を推進し、これらの疾患や医療の分野における国際協力に関する調査研究および人材育成を総合的に展開しております。

当センターの活動を推進し、使命を十分に果たすためには、その活動財源を安定的・多面的に確保することが必要不可欠です。課せられたミッションを実現して国民の皆さまに成果を還元するための財源に関して、企業や個人の皆さまからの寄附によるご支援をお願いいたします。

何卒、当センターの寄附の趣旨にご理解頂き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



ご寄付のお願い

診療時間

- 外来診療時間 8:30～17:15
- 初診受付 8:30～11:00
(紹介状を必ずご持参ください)
- ※休診日や完全予約制を設けている診療科もありますので、必ずホームページをご覧ください。



外来のご案内

アクセス

- 地下鉄をご利用の方
都営地下鉄大江戸線 若松河田駅(河田口)から徒歩5分
東京メトロ東西線 早稲田駅(2番出口)から徒歩15分
- 都営バスをご利用の方
JR 大久保駅 又は 新大久保駅より都営バス新橋行、
JR 新宿駅西口より都営バス医療センター経由女子医大行
「国立国際医療センター前」下車

